

欧米におけるIoT最新情勢

⑦

「プラグアンドプレイ・テックセンター」

「アクセラレーション・プログラム」

国際IT財団 事務局長 齋藤 奈保

プラグアンドプレイになった。しかし、投資するだけでは、有望な企業であっても成功するとは限らない。そこで、技術アドバイスの事業方針・事業計画策定などの経営相談対応、大企業や投資家とのマッチング機会などを一つのパッケージとして提供し、スタートアップの成長を加速する支援をはじめた。

このような取り組みは、他のインキュベーション施設やベンチャー



ファクトム・ローレンスCMO
(顧客市場分析最高責任者)

込む機会を提供している。ただし、全てのスタートアップがこれに参加できるわけではない。800社の申込のうち、エン

アクセラレーションプログラムは、テーマ毎に複数の大企業がスポンサーとなり運営されている。現在、人気のテーマはフィンテックである。ドイツ銀行など世界から18機関と最も多くのスポンサーを集めており、日本からも三菱東京UFJ

を受けた最初のケースとなった「ファクトム」は、ビットコインの基盤技術であるブロックチェーンを使い、貸付記録、証券、保険、医療などあらゆる記録を分散的に管理するシステムを開発した。中国の不動産市場など、信用取引のインフラが未

ードを用いずに様々なアプリケーションにアクセスできる技術を開発し、世界各国の企業と実証実験を行っている。日本企業も関心を示しており、日本向けカスタマイズも検討しているという。

エコシステム支える「若い力」

ーキャピタル、銀行などでも行われているが、PNPの強みは大企業とのマッチング機会の多さにある。スタートアップ400社が

は、新しい技術を求めて日米欧の大企業が日々足を運ぶ。PNPは、毎日数回「ミートアップ」と呼ばれる場をつ

トリーできるのはわずか20社に過ぎない。専門スタッフによりきちんと選抜されているこ

銀行や三井住友銀行などが参加している。フィンテックのスタートアップの例を紹介しよう。アクセラレー

現在のプログラムに参加中の「ウィーアクツ」は、スマートフォンの生体認証と位置情報とを組み合わせた本人確認により、パスワ

は、32歳のディレクターのロビンソン氏を筆頭に、平均年齢26〜27歳の若いスタッフたちだ。起業の最前線で経験を積みながら目利き能力を鍛えた若い力が、シリコンバレーのエコシステムを支えている。

その後、自らスタートアップに投資するよう

常時利用するPNPに

が大企業に技術を売り

が支持される理由とな

業後にPNPから投資

いる。

いる。